

## 都市計画からみた秋田市の地域開発\*

三 浦 鉄 郎\*\*

## Ⅰ はじめに

第2次世界大戦後わが国における経済の高度成長は、大都市は勿論地方都市にあっても、都市化・動力化・住宅化が著しく進められたことは周知の事実である。特に最近においては、都市の再開発がクロージアップされ、地理学の重要課題の一つに扱われている。1974年度日本地理学会秋季学術大会（富山大学会場）のシンポジウムで、地方都市における都市再開発が課題とされたことは特記すべきことである。秋田市は非戦災都市で、市街地は旧城下町の形態を保存し、進行する都市化や動力化に対応するため、昭和28年に都市計画の基礎調査を試み、昭和36～51年にかけて、第1次・2次・3次・4次の都市計画を樹立し、その未来像を「福祉都市」の建設に

おいた。本論では、未来像である「福祉都市」の建設のための都市の地域開発の状況と性格を明かにしたい。

## Ⅱ 都市計画の年次的構想と土地用途区分

第1表によって第1次から4次までの都市計画を通覧すると、未来像は「福祉都市」の建設にあり、その基本的構想の主点は、工業開発による都市の近代化と地方都市の歴史性と自然性を生かした、豊かな明るい都市づくりの計画がうかがえる<sup>1)</sup>。

第1図によって、その実現のための新しい用途地域（都市計画図）をみると、第1種住居専用地域から工業専用地域まで、8用途地域に区分されている。大別すれば、住居地域・商業地域・工業地域の3用途地域となる<sup>2)3)</sup>。

第1表 秋田市の年次的都市計画構想

事 項	趣 旨	主 要 基 本 構 想 事 項
年 次	一 次 S.36	1. 産業構造の近代化、特に工業の近代化・高度化。2. 都市環境の整備。3. 社会福祉の充実。4. 教育の振興。5. 業務管理の機能化
	二 次 S.40	1. 生産都市の基盤整備。2. 都市環境の整備促進。3. 公害と緑地対策。4. 対ソ貿易の具現
	三 次 S.46	1. 都市の再開発による機能化。2. 歴史的都市の保全。3. 自然環境の保全。4. 公害防止対策の推進
	四 次 S.51	1. 都市の機能化の再整備。2. 居住環境の再整備。3. 商業経営の近代化

\* 1977年10月2日立正地理学会秋田例会で発表した要旨に加筆したものである。なお、聖霊女子短期大学研究費の一部を充当した。

\*\* 聖霊女子短期大学

1) 第一種住居専用地域は、低層住宅地としての良き環境を保護する地域で、建造物の高さは10m以下、建ぺい率の限度は、3/10・4/10・5/10の三種で地域の状況によって決められる。容積率は、5/10・6/10・8/10となっている。また敷地の周囲に空地を確保し、日照問題や隣地間の境界紛争などを未然に防止するために、敷地境界線から建造物の外壁を1m以上後退することになっている。なおこの地域の中では、工場・風俗営業に関する施設などの建造物は禁止され、日常生活に必要な店舗用住宅・小学校・中学校・診療所などの建造物の建築が可能である。

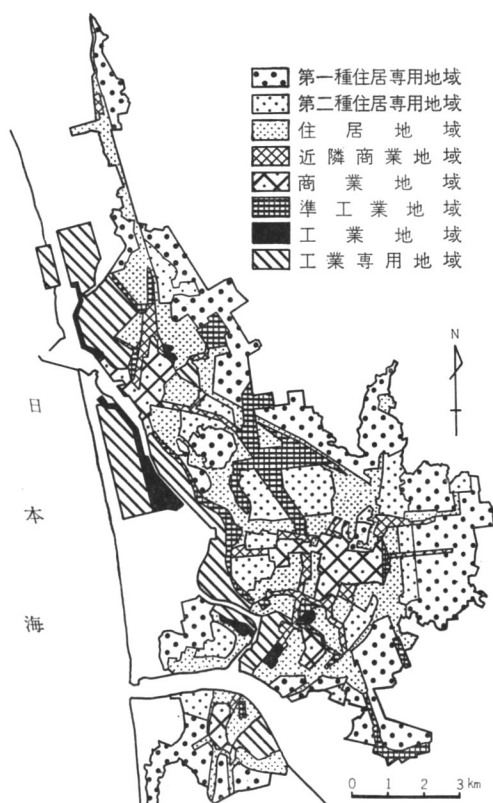
2) 第二種住居専用地域は、中高層住宅の建てられる地域として、良い環境を保つ地域である。したがって住宅環境の保全と都市的生活の便利さにもポイントがおかれ、店舗・事務所・病院などが建てられる。建ぺい率限度6/10、容積率限度20/10である。

3) 住宅地域は、住居の環境を保護する地域であるが、小規模な作業場や、ホテル・旅館などは建てられる。建ぺい率限度6/10、容積率限度20/10である。

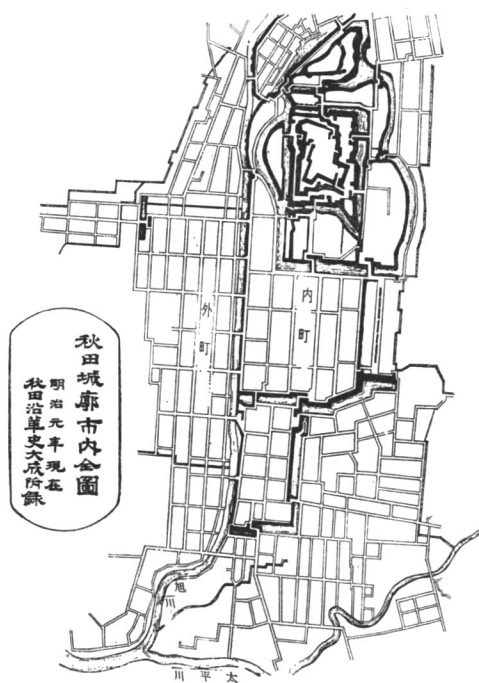
4) 近隣商業地域は、周辺に居住する人に対して日用雑貨品を供給する商業活動を促進するための地域である。店舗・事務所のほか、小規模な工場が建てられるが、一般の工場や劇場・キャパレー・料理店などは建てられない。建ぺい率限度は8/10、容積率限度は20/10となっている。

5) 商業地域は、いうまでもなく商業活動を増進するための地域で、高層ビルが集中し、銀行・事務所・映画館・キャパレーなどの風俗営業の施設が建てられる。建ぺい率限度は8/10で、容積率限度は40/10・50/10・60/10の中から、その地域の性格に応じて決定される。

6) 準工業地域は、環境の悪化をもたらす恐れのない軽工業の立地を促進するための地域である。この地域では、公害の発生する工場や、危険物を取扱



第1図 秋田市の新しい用途地域



第2図 秋田城廓市内全図

工場を除いては、ほとんどの用途の建物が建てられる。建ぺい率限度は6/10、容積率限度は20/10である。

7) 工業地域は純然たる工業地域であって、ホテル・料理店・映画館・学校・病院などは建てられない。住宅・事務所などは建てられるが、住宅地としては不適当である。

8) 工業専用地域は、特に工業の発展を促進するための地域である。したがって、工業地域での住宅・店舗・娯楽施設などの建物を建てることは禁止されている。建ぺい率限度は6/10、容積率限度20/10となっている。

### III 都市計画の歴史性

慶長7年(1602)佐竹義宣が常陸の水戸から国替を命ぜられ、秋田の地に入部し、一時土崎の秋田氏の居城であった湊城に居を構えたが、翌8年(1603)、秋田平野に分離した第3紀丘陵(神明山)に築城して、ここを本居とした。そして慶長10年(1605)には、神明山と東方の手形山(河岸段丘)との間を流下していた旭川を流域変更して(現在の流路)、これを境に東部を土族町(内町)、西部を町人街(外町)とした城下町を形成した。

この都市計画は、佐竹氏の士卒3,000人とその家族及び一般人を加えて約15,000人の人口を収容するものであった(第2図参照)。

### IV 現代の地域開発

#### 1 地域開発の必然的要因

① 旧藩政時代から消費都市であったものが、昭和8年(1933)に茨島工業地区が誕生したこと。

② 昭和29~30年(1954~55)の町村合併によって、人口が約18万人から昭和33年(1958)には、約23万人と増加したこと。

③ 経済の高度成長による所得格差の是正。

④ 新産業都市の指定。

⑤ 急進する都市化・動力化・住宅化。

⑥ 出稼現象の抑制。

⑦ 将来真日本の中核都市たらしめること。

⑧ 旧城下町形態を改造すること。

#### 2 都市の拡大と市街地の再開発。

秋田市の拡大は、都市計画をまたずに遠心的・求心的両拡大が顕在した<sup>4)</sup>。

##### A) 遠心的拡大

##### i) 新都心の形成

城下町時代の都心は、いずれの城下町でも城郭を中心とした地区であった。秋田市の政治の中心地は、城郭の所在地である久保田神明社の森であった。明治期に入って、県庁が明治4年(1871)藩庁を今の県民会館の場所に建設し、同5年明德館跡(今の婦人会館の場所)に移り、翌6年に焼失したので、久保町に仮庁舎を建て、さらに同11年(1878)5月には中長町(現在の中通1丁目)の地に建築された。

市役所は明治22年(1889)に土手長町中丁(現在の中通3丁目)の郡役所を借用し、同38年(1905)全焼したので、大町3丁目の仮庁舎へ移転、同42年(1909)土手長町上丁(現在の千秋矢留町)の藩政時代における御会所跡に新庁舎を建設した。爾来県庁と市役所を中心とした中長町から土手長町地区が都心の機能を果たしてきた。ところが、昭和32年(1957)年突然の火災によって県庁が全焼したのを機会に市の西部八橋田圃に近代的(地上6階、地下1階)な高層ビルを同34年(1959)に建設した。その後市役所が都市計画によって、県庁の真向いに同39年(1964)4階建の近代的ビルを新築して移転し、大秋田市都心の基盤が形成された。それにもなつて、法務局・裁判所・NHK・ABS・秋田銀行本店などが旧市街地から新築移転し、名実ともに都心の機能を発揮している。なおAKTが新しく立地した。

##### (イ) 都心移動の要因

① 戦後の人口増加と町村合併などによる行政機構の改革と拡張にせまられたこと。

② 新都市計画が進められていたこと。

③ 県庁の火災が移動を早めたこと。

(ロ) 新都心の立地要因

① 都市計画の施行上から秋田市の地形をみると、北方～東方～南方は、丘陵で囲まれ、交通上不利利益であるばかりでなく、新都心地としては閉鎖的である。

② これに対して、西部は平たん地が広く、秋田港を控え海陸交通の利がある。

③ 八橋田圃は旧雄物川のバックマアシュではあるが、当時の地価は1坪3,000円程度であったことが、都心立地の経済的ポイントであった。

#### ii) 住宅地区の形成

戦災(第2次世界大戦)や外地引揚者などによって住宅難におち入り、その結果、西方では川尻を中心として、市営・県営・帝国石油会社の住宅がたてられ、北方手形地区にも県営・営林局などの住宅がたてられ、東方明田地区は個人の住宅地として利用された。

最近は、手形地区に接する山崎地区も立派な住宅街を形成するにいたった。南方の新屋地区や土崎將軍野地区、新国道(国道7号線沿い)を中心に八橋地区、外旭川・泉地区も完全に住宅地化された。

このような現象を第2表の住宅建築確認戸数によってみると、昭和46～50年(1971～75)までの合計が21,144戸(住宅建築確認戸数)で、そのうち最も率の高いのは、61.46%(12,995戸)の専用住宅で、次いで共同住宅の20.27%(4,286戸)、第3位が貸家の5.62%(1,188戸)である。

また第3表の用途地域別確認件数によると、住居地域がその件数で最も多く5,274戸を示し、35.95%となっている。ついで第1種住居専用地域で、4,562戸で31.10%を示し、第3位が第2種住居専用地域の2,111戸で14.39%を示している。以上住宅の数値の高いことは最近の住宅ブームを反映している結果である。

このように新しい住宅地が市の周辺に発生したことは、旧軍用地跡や未利用地の利用は勿論である

が、住宅ブームにおされて農耕地の宅地化が進められたことによる。

この現象は、都市の遠心的拡大であるとともに、都市化の傾向と限界を考えるによい指標であろう。

#### iii) 工業地区の形成

##### a) 近代工業立地の初象

秋田港湾地区への工場の立地は、昭和13年(1938)雄物川の大改修工事によって、その土砂の埋立がなされ、72.71ha(264万m<sup>2</sup>)の工業用地が造成され、東北振興事業の手により、はじめてこの地に化学工業である東北肥料・東北製紙(十条製紙)、また東北機械等の企業が立地し、古くからの日本石油秋田製油所と秋田土崎国鉄工機部工場と、ともに秋田

第2表 住宅建築確認戸数(新築分)

種 別	年 度					計
	46	47	48	49	50	
専 用 住 宅	2,121	2,731	2,752	2,521	2,870	12,995
併 用 住 宅	201	266	151	118	112	848
共 同 住 宅	730	1,076	638	480	1,362	4,286
長 屋	24	54	25	4	41	148
貸 家	324	385	201	124	154	1,188
社 宅	15	10	18	13	9	65
市 営 住 宅	90	110	96	48	72	416
県 営 住 宅	87	88	30	180	43	428
公 社	233	186	173	61	117	770
計	3,825	4,906	4,084	3,549	4,780	21,144

第4次秋田市の現状と将来の展望より(S.51.9)

第3表 用途地域別確認件数（計画通知分は除く）

年次		48	49	50	計
用途地域	第一種住居専用地域	1,115	1,625	1,822	4,562
	第二種住居専用地域	549	765	797	2,111
	住居地域	2,158	1,430	1,686	5,274
	近隣商業地	185	247	279	711
	商業地域	355	275	345	975
	準工業地域 工業地域	331	218	285	834
	工業専用地	57	71	74	202
	小計	4,750	4,631	5,288	14,669
指定のない地域		223	329	322	874
計		4,973	4,960	5,610	15,543

## 第4次秋田市の現状と将来の展望より（S.51.9）

港湾工業地区を形成するにいたって、消費都市から生産都市へと転じた。

## b) 秋田新産業都市の誕生

昭和38年（1963）全国13地区の新産業都市が指定されてから、2年後に秋田港湾臨海地区を含めて、秋田市が新産業都市に指定された。その地区は秋田港と船川港を2大拠点とし、行政的には秋田市、男鹿市、昭和・飯田川・天王・井川・若美の各町を含み、面積は826km<sup>2</sup>、人口30.6万人を数える。

当開発地区は旧雄物川沿い（現在の秋田運河）と河口付近で、前項で既に述べた日本石油秋田製油所や東北肥料会社・十条製紙会社が立地し、秋田港には1万5,000t パースと1万t パースが設けられている。新規工業地は対岸の向浜地区に132万m<sup>2</sup>の用地を造成して、秋田製紙会社が設置をみた。この用地に接続して、運河沿いに原木貯蔵のための陸上・水面両貯木場や木材整理場が設けられている。また

日本石油秋田製油所の東側に接して、33万m<sup>2</sup>の用地に肥料センター、その東側に57万m<sup>2</sup>の用地をもつ同和鉱業亜鉛製錬所が立地し、その東部に用地48万m<sup>2</sup>をもつ東北電力火力発電所が建設されている。秋田本港に対して、秋田北港の建設が進行中である。この秋田北港を中心とする工業地区に対して、男鹿市船川港の南部に24万4,000m<sup>2</sup>の第1造成地と24万6,000m<sup>2</sup>の第2造成地と32万m<sup>2</sup>の水面貯木場、木材投下泊地などが予定され、第1造成地は公共物掲揚・原木流通センター・家具センター・木工・建具・目立チップ・製材などの工場用地とされ、第2造成地は、合板・繊維板・製材・第2次加工合板・家具などの工場用地に予定されている。

現在はそれらの一部は既に建設され、16社がフル操業にはいってあり、飯島団地から船川団地にかけて、天王砂丘上の臨海部に化鋳コンビナートと船川港湾に木材コンビナートを形成しつつある<sup>5)</sup>。

この新産業都市の地域開発が完成したときは、必然的に港湾と都市が一体化をみ、都市の再編成期にはいることであろう。

## B) 求心的集中と市街地の再開発

求心的集中の顕象化された地域は、駅前商店街・広小路商店街・大町商店街が好例である。

## i) 駅前商店街

ここは戦後外地からの引揚者達が駅前という地点性を利用して、日用品・飲食店などのマーケットを開いたのが、今は立派な専門店による商店街を形成し、中でも「なかよし」「ジャスコ」「ステーションデパート」「緑屋」などのデパートが立地したことは、この商店街を特色づけている。

## ii) 広小路商店街

ここは秋田市のメインストリートで、古くからのデパートの存在地であった。現在は木ノ内デパートを中心に、秋田プラザ・セントラル・長崎屋・丸三などの一流デパートが群立し、その他各種の専門店が設けられ、秋田市唯一の買物街を形成し、飽和状

第4表 秋田市の遠心的拡大と求心的集中

現象 事 項 地区		遠 心 的 拡 大	現象 事 項 地区		求 心 的 集 中——再 開 発
山 王 地 区	行政 機 関	旧都心——→新都心 県庁舎・地方総合庁舎・市役所庁舎・ 法務局・裁判所・報道機関(NHK・ ABS・AKT)・銀行など	中 通 七 丁 目 ・ 中 通 一 丁 目 ・ 二 丁 目 ・ 大 町 二 丁 目	商 店 街	1. 駅前商店街 戦後外地—引揚者—日用品店・飲食店、現在 は専門店(洋服・時計・メガネ・傘・靴類 ……) なかよし、ジャスコ、緑屋などのデパート
	スセ ボン ター ツ	県営 (体育館・野球場・スケート場・ ラグビー場・陸上競技場) 市営 (山王体育館)			2. 広小路商店街(メインストリート) 木ノ内・セントラル・長崎屋・丸三・協働 社・秋田プラザなどのデパート
手八 十 形 橋 崎 ・ ・ 地 川 新 区 尻 屋 ・ ・	住 宅	東部—明田・広面・手形方面 西部—川尻・八橋・寺内方面 南部—新屋方面 北部—將軍野・飯島方面			3. 大町商店街一名店街 辻兵・本金などのデパート 名店街(金属類・文房具・洋服類・カメラ・ 靴類・菓子類・民芸品・絵画の各店) 飲食店
茨 島 ・ 新 屋 ・ 土 崎 地 区	工 業	茨島—東北肥料・パルプなど 土崎—秋田本港(日石製油所・秋田石油 化学工業)土崎工機部 飯島—秋田北港(同和鉱業亜鉛製錬所・ 東北電力火力発電所……) 向浜—秋田製紙工業……			4. 再開発地区 (1) 駅前・南通り地区 (2) 大町地区
手二 地 形 井 井 田 ・ 寺 内 ・ 茨 島	教 育 機 関	手形方面—秋田大学・秋田高校 二井田方面—秋田南高校 茨島方面—秋田経済大学 寺内方面—聖霊女子短大			
イ大 登 橋 木 ノ 各 地 川 新 区 大 川 畑 向 ・ ・	自 動 車 関 係	いすゞ・ホンダ・スバル・日産サニー・ トヨタオート・羽後モータース・秋田マ ツダ・ブリヂストン・秋田ダイハツ・秋 田オート・秋田ニッサン・秋田日光モ ータース・プリンス			

態を呈している。

### iii) 大町商店街

ここは辻兵・本金両デパートをもつ、歴史的な商店街であるが、新しく名店街が設けられて、広小路商店街に対抗しているが、地点性の不利が地線性から遠ざかり、経営上の苦難に迫られている。

### iv) 商店街の再開発とその構想

現在都市の再開発といえば、市街地の再開発特に商店街の近代化が重要課題としてみなされている。

秋田市では、駅前商店街と大町商店街と南通商店街があげられる。

駅前商店街は秋田市の表玄関であり、顔であるから再開発の最急務地区である。この地区は前述したように戦後立地の商店街であるため、狭い小路に雑然と並ぶ商店は景観上好ましくない。

秋田市の都市計画審議会と秋田駅前再開発準備組合とが再三の話し合いがもたれた。その結果の構想のあらまは、中央部に20路線のバスターミナル、立体駐車場と大型商業ビル(地下2階・地上6階・塔屋)、面積3万4,629m<sup>2</sup>、内70%は核テナント(ニチイ)、残り30%は地元地権者46業者と一般公募の地元業者が入居の予定。着工は年内、オープンは55年

10月と考え、総工費60億円という。

大町商店街は前2者より古く、シニセの辻兵・本  
金を中心としたところであり、ショッピングセンタ  
ーの核にふさわしい地区である。

再開発の構想は、辻兵デパート・日銀秋田支店・  
秋田銀行大町支店付近7,864m<sup>2</sup>に核テナントを中心  
とした大型ショッピングビルと駐車場ビルを建設し  
ようとするものである。建物の規模は地上4階・地  
下1階、延べ面積33,000m<sup>2</sup>、このうち店舗面積19,  
800m<sup>2</sup>、全体の90%を核テナントが直営とし、残り  
の1,980m<sup>2</sup>は辻兵その他地元の専門店が入居する。

ビルの性格は食料品・衣料品・日用雑貨を主とする  
スーパーと各種専門店が同居する総合店舗となる  
わけである。駐車場は、辻兵デパートの裏手に面積  
3,729m<sup>2</sup>を用意し、その建物の規模は6階とし、2  
階～5階までを駐車ペースとし、600～700台を収容  
する予定で、1階はショッピングアーケードとし、  
ここに10軒位の店を入れ、6階は住居とする。

総工費55億円を見込み、秋田大町ニューシティー  
を実現しようとするものである。

南通り商店街は延長約1kmに及ぶ伝統的商店街で  
ある。ここは専門店の集積のもとに対面販売を通じ  
て消費者に満足のゆくサービスを提供することを想  
定している<sup>6)7)8)</sup>。

## V 福祉都市の性格

### 1) 意義

人間生活の場として多種多様な人間の欲求を満た  
すに足る都市機能を十分に発揮し、人間が幸福な生  
活を営むことのできる都市のことである。

### 2) その主要素

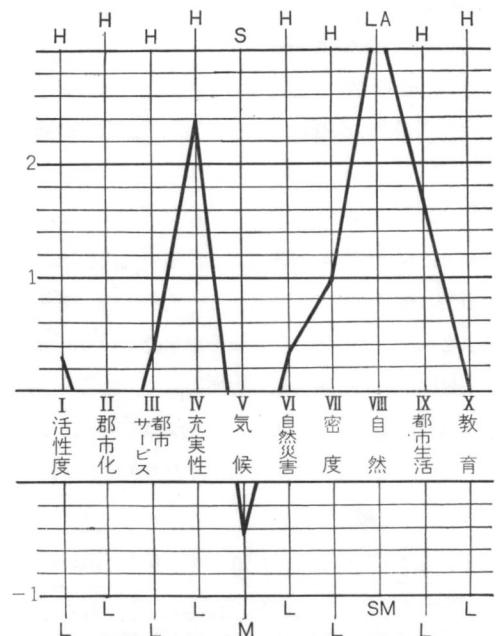
①中枢管理機能の高率化、②生活の安全性、③快  
適性、④居住性、⑤歴史性、⑥最新性などがあげら  
れる<sup>9)</sup>。

そこで当都市計画の目的は、前述したように、明  
るく豊かな福祉都市の建設にあるから、その目的を

達成するのにどの点に留意すべきかを検討するため  
グレーディング法による因子分析を行なった<sup>10)</sup>。

まず12の指標(1-自然基盤、2-歴史・伝統、3-地  
理基盤〈接続都市との関係〉・4-産業基盤、5-交通  
基盤、6-人的基盤、7-建築物基盤、8-行財政基盤、  
9-土地基盤、10-保安基盤、11-文化基盤、12-生活  
基盤)を決定し、それらを10の等級に区分して、そ  
れぞれをランクづけした。このランクづけした指標  
中から、目的達成に必要な因子と考えられるもの10  
(I 活性度、II 都市化、III 都市サービス、IV 充実  
性、V 気候、VI 自然災害、VII 密度、VIII 自然、  
IX 都市生活、X 教育)を選定して、得点グラフ化  
したのが第3図である。

この因子得点グラフからいえることは、①活性度  
と都市サービスをもっと高める必要がある。②充実  
度については、古い歴史や伝統を保全しながら、都  
市の発展を図る必要が認められる。③都市化の進捗  
が緩慢であることは、都市計画を促進させるの好



第3図 秋田市のグレーディング分析

(因子得点グラフ)

H-HIGH, L-LOW, S-SEA, SM-SMALL,  
LA-LARGE, M-MOUNTAIN



条件である。

## VI 都市の構造と機能

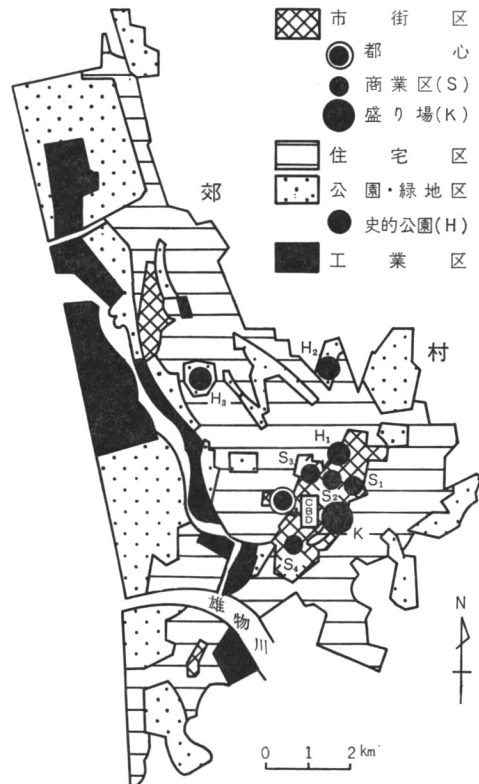
都市の構造と機能を、前項に述べた諸要素とグレーディング法分析の結果と都市計画図（土地利用図）から福祉的見地から述べよう（第4図参照）。

1) 市街区には、C-都心、CBD-業務区、S-商業区〔S<sub>1</sub>広小路地区、S<sub>2</sub>駅前・南通地区、S<sub>3</sub>大町地区、S<sub>4</sub>6丁目地区（伝統的）〕、K-盛場（川反地区）から成り、生活安全度の面から、この地区は防火地区に指定されている。都心部地区には、県庁・市役所・地方総合庁舎・法務局・テレビ・ラジオ局などが集中し、特に県庁と市役所と法務局が相接近して位置を占めていることは、管理機能の高率化につながり都市計画上の価値化を高めている。

業務区（CBD）は、近世佐竹氏時代の両替え屋のあったところ（大町3丁目）、明治45年（1912）に秋田銀行（はじめ第1国立銀行）、大正14年（1925）に山口銀行、同15年（1926）に秋田商工会議所などあって伝統的な地区である。現在は野村・日興・大和の各証券会社や秋田銀行支店・山形相互銀行・庄内銀行などの金融会社、郵便局・電信電話などの通信関係機関、協働社ビル、それに大町2丁目の日本銀行秋田支店や山一証券会社を含めた区域である。

商業区は再開発の対象となり、その近代化による最新性を発揮することによって、人間生活の諸々の欲求を満足させる場として重要な意義をもつ。特に6丁目は、建具・家具類の専門店街で、佐竹氏時代には他町の職人乱立を防ぐため専業権を与えられた。福田・阿久津・清水・本庄などの店はいずれも古い。その伝統性を長く継続させたい。

盛り場は人間の享楽性・娯楽性を潤すに絶対的必要なところである。夜の都心的性格をもつものといっていよう。当市の盛り場は、通称「川反」と呼ばれる繁華街「ネオン街」で、料理屋・キャバレー・バーなど480軒が店を並べている。



第4図 秋田市の都市構造

CBD: 業務区, S<sub>1</sub>: 駅前地区, S<sub>2</sub>: 広小路地区,  
S<sub>3</sub>: 大町地区, S<sub>4</sub>: 6丁目地区, H<sub>1</sub>: 久保田城跡,  
H<sub>2</sub>: 天徳寺, H<sub>3</sub>: 秋田城跡

明治時代にはじめて洋食店が開かれ、また置き屋が並び、大正時代に川反の芸者が150人といわれ、昭和時代に入って、カフェー乱立の況を呈したほどであった。川反繁華街が商店街やCBDから若干の距離をへだて、川沿いに立地形成されているところに情緒がある<sup>11)</sup>。

2) 住宅区は市街区を取り巻き、その範囲が広く、地形的にはかつての自然堤防後背の湿地帯が住宅地化されたところもある。手形住宅区は旭川の湿地帯であり、泉・八橋住宅区は旧雄物川の湿地帯に当たる。手形からみでん地区は、梅雨時や台風期には浸水になやまされたが、今は旭川上流にダムがつくられその心配がなくなった。泉地区は今なお浸水に苦しめられているところがある。

都市住民は一般に都心近くに居を構えることを希



望するのが当然のことであるが、商業地区の周辺は空地がなく、新居の建設は不可能である。したがって自動車化にふさわしく、マイカーで都心に接近できる範囲内に住宅を建設する傾向が著しくなり、手形・山崎・明田・広面・川尻・新屋・寺内・將軍野・飯島などの各地に住宅団地化がみられるようになった。また住宅区の人々は、消費生活のスムーズ化を希望するから、それを満足させるのに、交通体系の整備が必要なことはいうまでもない。

バス運行の体系は、幹線街路にしたがって、秋田駅前のバスターミナルを起点に、秋田市営バスが市内環状・末端の各運行をなし、それに中央交通・秋北交通・羽後交通の各バスが秋田市と地方をそれぞれ結び、整備充実の段階に入っていることは、都市サービスを高度に導びいている。さらにマイカーのために駐車場が、ショッピングセンター地区を中心に開発整備されつつある(第5図参照)。

3) 公園緑地区は住宅地区を取り巻いて、工業地区と遮断し、公害防止の役を果たしていることは、今日的意義が大きい。特に歴史的都市・快適性都市たらしめているのに、佐竹氏20万石の久保田城跡である千秋公園がある。園内には平田篤胤・佐藤信淵を合祀する弥高神社(県文化財)があり、園域は桜とツツジ(佐竹氏時代からのもの)の名所である。

次に佐竹氏の菩提寺である万固山天徳寺(県文化財)と五庵山の墓地を含めて、平和公園が建設され五庵山の麓、山門までの松並木は、藩政時代を偲ぶに十分である。

如斯亭(県文化財)は、佐竹氏9代藩主義和によって完成された名園で、東山時代の遺構といわれている。

秋田城跡(高清水公園)は、国の文化財に指定され、古代北方経営の拠点で、空素沼を控え、緑の森として県民に親しまれ、公園内には護国神社や秋田城跡の出土品の収蔵庫があり、桜の名所でもある。

以上はいずれも文化的価値の高い歴史的残象とし



第5図 秋田市街地の幹線街路

て、本市を特色づける重要なものである。

その他、児童公園としての大森山は、市民のこよなきいこの場である。

4) 工業区は秋田港湾に形成され、緑地帯によって、住宅区・市街区から遮断されていることは一大特色である。新産業都市の中核で、ゆたかな生活の基盤としての意義が深い。

5) 郊村区は都市の周縁地域である農村部で、都市生活者への穀物・野菜果実類を供給する源地であるが、1ha未満の経営農家が59%(6,369戸—昭和50年)を占める状態であるため、農業構造改善が進められている。

## VII むすび

秋田市の都市計画の過程を年次的にみると、その目標は一言で「福祉的都市」の建設ということがで

きる。秋田市の地域的発展の現状を、遠心的・求心的両面から考察し、これらの現象を基盤に都市構造を考え、特に都市計画の目標である福祉の見地から各構造の機能の性格を述べた。すなわち都心地区の管理機能は、県庁と市役所とが相対する位置にあるため、極めて効率的である。

商業地区は、再開発地区に指定され、最新性とサービス性を核に開発の構想を示し、また市民生活のスムーズ化を促進するための交通体系が整備されている。

緑地公園地区は、快適と歴史を重んじ、特に文化

財を中心として歴史的都市の性格を具現している。

またこの地区は、住宅区・市街区から工業地区を隔離して、公害防止の働きをもっている。

工業地区は、新産業都市の生命であって、秋田県における生産活動の中心である。

幸なことに、都市化のテンポがのろいことが、都市計画を実施するのに好都合といえる。

本稿のために資料提供をくださった秋田市役所都市計画課や、製図にご助力をいただいた山脇健氏に對して感謝の意を表する。

#### 注および参考文献

- 1) 秋田市：秋田市の現状と将来の展望（第1次—S.36, 第2次—S.41, 第3次—S.46, 第4次。—S.51）,
- 2) 秋田市（1973.7.20）：新しい用途地域（秋田都市計画図），広報あきた。
- 3) 小川博三（1975）：都市計画，p.p.83～91。
- 4) 三浦鉄郎（1965）：都市計画，秋田県史第6巻（大正・昭和編），p.p.304～329。
- 5) 三浦鉄郎（1974）：男鹿半島の地誌的考察，聖霊女子短期大学紀要，第3号，p.p.74～93。
- 6) 秋田魁新報（1977.4.17 付），（1978.6.14）：秋田市南通り地区の再開発構想。
- 7) 同（1977.8.6 付）：秋田市大町地区の再開発構想。
- 8) 同（1977.8.25 付）：秋田市駅前地区の再開発構想。
- 9) 田辺健一・高野史男・二神弘（1977）：都心再開発，p.p.9～23。
- 10) 日本青年会議所国家問題・都市問題委員会に依頼した結果である。
- 11) 秋田魁新報（1966）：秋田むかしむかし，p.p.109～135。

# A Research of the Regional Development of Akita City in the City Plan

**Tetsuro MIURA\***

## I. Object

To investigate the city plan from the view of the welfare city, which is the goal of Akita city.

## II. Methods

- 1) Chronologically analysis of the city plan of Akita city.
- 2) Analysis of the regional structure in relation to the present developing situation of Akita city, especially from the point of welfare functions.

## III. Major Findings

The main functions of the regional structure to serve for the welfare city are as follows :

- 1) The Prefectural Government and the City Office are located very near each other, and they work very effectively.
- 2) The developing plan of commercial districts has been considered from two angles ; an up-to-date arrangement and service for citizens. The urban traffic problem has ipmroved and become more convenient than before.
- 3) The green park districts are designed by taking account of comfortableness and historical elements. Many cultural assets are shown in historical Akita city. Besides, the green park districts separate the residential area and the town from the industrial area, and protect them from pollution.
- 4) The industrial area is the life of the new Akita industrial city as well as the center of productive activities of Akita Prefecture.
- 5) The city plan should be carried out over a long period of time.

---

\* Seirei Women's Junior College.